



2019清掃支部新入組合員歓迎会

これが清掃支部のポリシーだと思っています。そこは問題なく、どこの職場でもそういう仲間づくりをして頂いていると思いますので、大いにやりがいのある職場です。これからの活躍を期待申し上げます」とあいさつされた。

新入組合員の皆さんは少し緊張がみえたが、会場に集まった先輩組合員たちとテーブルを囲んでのしばしの歓談のなかで親睦を深めた。

また、黒澤ユース部長からは「ユース部としても様々な取り組みを楽しみながら行っていきますので、ご参加宜しくお願います」とあいさつされた。

新入組合員それぞれがあいさつを行った後、各分会と支部執行委員の紹介がおこなわれた。

最後に田村書記次長による「団結がんばろう！」を全員で行い会を締めくくった。これから新入組合員の皆さんが、清掃支部の取り組みに積極的に参加できるよう、多くの仲間を支えていきましょう。

(教宣部)

新入組合員歓迎フットサル大会!

行われた。試合が始まると笑顔の中にも真剣さがあり、白熱した試合が繰り広げられた。年の差に関係なく子どもも、大人も、新人も、支部役員も夢中でプレーした。

また、1つのコートを子どもたちが遊べるように開放し、親子で楽しく遊んでもらった。さらに親子試合も行われ、多くの子どもたちが必死にボールを追いかけゴールを目指した。

結果は多摩チームの優勝となったが、勝敗よりも参加した皆さんが無事で、怪我人を出さず楽しく気持ちよく汗を流せ、親睦を深めることができた。

今後、家族で参加できる楽しいイベントを企画して参りますので、ご協力お願いします。

(文化体育厚生部)



〈多くの皆さんに安心して参加してもらうため〉

- ①来てくれたみんなで競技に参加します!
- ②ケガやトラブルの原因となる飲酒を禁止します!
- ③水、お茶、スポーツドリンクなど、

お子さん用のお菓子を用意します!

- ④禁止されている会場内での煮炊きを行わない!

を実行します!! (文厚部)

分会教宣部長の声

こんにちは王禅寺分会、教宣部です。今回は、王禅寺処理センターに併設されているエコ暮らし環境館をご紹介します。

環境館は『資源循環』『温暖化対策』『自然共生』の3つのテーマに基づいた体験学習型の展示施設になっています。定休日の水曜日を除いた日に一般開放している

だけでなく、年間6千名以上の団体見学希望者を環境館スタッフとセンター職員



すること、広く市民の方に向け3Rの大切さを普及啓発していきます。

つい先日3月24、25日もペットボトルのキャップを再利用したコマ作り教室や、不要となった物品同士の物々交換会、さらにNPO法人や生活環境事業所協賛による各種イベント等を実施し、多くの市民の方々に楽しんでいただけたと思います。

今後も教宣部として環境館という場を利用して普及啓発を続けていきたいと思っております。

隣にいる仲間を想う

在日外国人と日本人は

国籍・民族を超えていけるか

第17回

林慶一

●大学四年生「無敵」を指したはずなのに

韓国生活六年目に入ったヨンスは大学四年にはなりまじました。留年が確定してしまいましたが、一年の時、単位を大きく落としたためです。授業は難しい専門用語が飛び交うので全く聞き取れない科目もあり、単位を取ることは容易ではありません。ヨンスは少なくともあと二年は大学に通わなければなりませんでしたが、兵役のため休学していた同級生たちが復学してきていたので大学に四年以上在籍する学生はたくさんいました。彼らと再

会し、酒を飲みに行ったつもりもありません。顔見知りになった後輩たちに食事をおごることも増えました。もともと二年遅れで入学したヨンスは入学当初から同級生より年齢が上で、同級生同士で食事をすればヨンスがいつも会計をしていました。しかし先輩と食事をすればその先輩が会計をしてくれます。バス停や駅などで偶然会った先輩や後輩にもバス代、電車代など出してもらったり出してあげたりします。ワリカンという概念がなく、カップルで外出すれば必ず男性がその費用を出しますし、男女混合のグループで出かける

きは、男性のなかの年長者がその費用をすべて出します。韓国ではこういった得なか損なかわからないシステムがありました。後輩たちの中でも新聞放送学科一年に在籍している鄭宙永(ジョン・ジュヨン)には学生食堂でしょっちゅう待ち伏せされ、昼食をねだられました。ジュヨンには悩みが二つあり、一つは恋人が同姓同名であること、もう一つは故郷の両親にソウル大学に通っているとウソをついていることでした。ジュヨンの恋人、鄭珠英(ジョン・ジュヨン)とは漢字は違うけれど発音が同じいわゆる「同姓同名」で、姓が同じなため結婚できないので(現在は法改正され結婚できる)うまくいっていないとのことでした。ジュヨンは、結婚できないのは分かっているが別れたくない、と言っていて、恋

人の方のジュヨンは、結婚できないなら別れるしかない、と主張しているようでした。本人たちにとっては深刻な悩みですが、ヨンスにとっては他人事なので、興味本位に、お互いなんと呼び合っているのか聞いてみました。ジュヨンは「ヨンア(珠英ちゃん)」と呼び、恋人のジュヨンからは「ジュヨンシ(宙永さん)」と呼ばれているそうです。このようなケースはいかにもありそうな話ですが、名前が同じせいで結婚できないというのは世界中探してもなかなかないのではないでしょうか。非常に興味深いです。大きなテーマではあると思いますが、ヨンスには解決できるわけもなく、もう一つのジュヨンの悩みである、ソウル大学に通っている、と両親にウソをついていることについて話し合いました。ジュヨンの家は故郷の両親が

かなり無理をして入学金を出してくれたようです。そんな両親への申し訳なさから韓国で一番有名で水準の高いソウル大学に受かったと、つい言ってしまったそうなのです。ヨンスはまず、延世大の新聞放送学科で授業を受けてみて学習意欲がわくかどうか聞いてみました。するとジュヨンは、面白いことは面白いけれど自分の夢は政治家か法律家になることなのでそのためにはやはり政治学科か法学科で勉強したい、と言いました。転科するにしてもやはり試験は受けなければならぬので、浪人してソウル大学を受けなおしたいと思うけれど、なかなか親に正直に言えない、というのです。ここま

で話を聞いて、ジュヨンは既に答えが出ているのではないかと思います。あとは誰かが背中を押すだけだと思います。このように、ヨンスは大学での仲間や後輩たちとゆるやかに付き合いながら過ごしていました。授業での専門用語は抜きにして朝鮮語での会話はほとんど不自由がなくなり、少しだけ残る日本語っぽいイントネーションも周囲の人には方言と受け取られるくらいになっていました。日常生活では在日であることが知られる必要がないので、なるべく在日であ

い、故郷へ戻って直接ご両親に話した方がいい、必要なら一緒にいってあげようか、とまで言いました。するとジュヨンは心を決めたようでした。やはり故郷に帰ろうと思っ、親にすべて話して、一からやり直し、ソウル大学に入るよう頑張ろうと思う、故郷に帰ることになれば恋人とも遠距離になるから、お互い少し冷静になれると思う、と話しました。

このように、ヨンスは大学での仲間や後輩たちとゆるやかに付き合いながら過ごしていました。授業での専門用語は抜きにして朝鮮語での会話はほとんど不自由がなくなり、少しだけ残る日本語っぽいイントネーションも周囲の人には方言と受け取られるくらいになっていました。日常生活では在日であることが知られる必要がないので、なるべく在日であ

分会だより

加瀬分会

No.187

こんにちは加瀬分会です。今年度は、自動車運転手2名、搬出作業員1名の3名の方が入れ替わりました。搬出作業員の方は、以前加瀬に在籍されていた方で、すぐに慣れたとおっしゃっていました。二人は、久しぶりの運転で最初はものすごく緊張したと

話されていましたが、研修も終わり毎日頑張っていただいています。また加瀬分会としては、引き続きあらゆる差別をなくし、加瀬分会の全員が思いやりをもって明るく楽しい職場づくりに向けて取り組んでいきます。そして今年も地域住民の方たちと年2回の予定で、矢上川の美化活動を開催し交流を深めていきたいと思います。

ご都合のよろしい方の参加をお待ちしております。

仲間達

(344)

直営をやる

2017年に浮島処理センターから堤根処理センターへ異動されてきて、2年目になります。職場ではごみ焼却プラントの運転操作のほか、監視、点検業務、故障した機器の修理等をされています。昨年度はISO審査員補の資格を取得され、他処理センターの適合監査を行うなど、職場の枠を超えて活躍される予定です。

現在は埼玉から通勤して、早寝早起きの健康的な生活を中心掛けているそうです。また、仕事では体力が必要なので、今年の目標の一つとして、体力づくりを目指しているとのこと。体を動かすことを意識して、登山やスノーボードなど、今まであまりやっていたことのないスポーツにもチャレンジしようと考えているそうです。

生年月日 年月日
入所年月日 年月日
家族構成 父、母、姉
趣味 旅行
好きな色 茶色
好きな言葉
笑う門には福来る

